貞觀元年（六百二十七年）其臣俟斤を遣はし、唐の使者、道立と共に入朝す。宋の代（九百年代）高昌北庭の地と爲り、元の時（千二百年代）回鶻に屬し、別矢八里（ベシバリ）と稱ふ。成吉思汗の十七年（千二百十二年）此地に在て、金國の使、烏克遜仲端（ウグソンチユントウン）を召見す。至元十七年（千二百八十年）北庭都護府を置き、兼て新驛三十を設く、元貞元年（千二百九十五年）更に北庭都元帥府を置き、次で五城の地に屬し明の世（千四百年代）には蒙古の厄魯特（エルド）に屬したり。

爾來滿漢の移民及東干の種族等相雜居して、廣大なる市區を成形し。商民輻湊茶寮酒肆軒を連ね、繁華の都會たりしに、最後に東干の謀叛に因りて、漢城及清人の家屋は、悉く亂民の毀つ所と爲り、城下半は破壞せられしが、後、清朝之を恢復するに及んで、新に軍鎭を設け、城壘を築き、內外の工商漸次集り來りて、方今復た新に一都城の形を成すに至る。

其の廸化、城の創築は、實に乾隆三十一年（千七百六十六年）に係り、當時唐の至德年間の殘碑を掘り得て、始めて此地の金蒲城たりしを知れりと云ふ。

地形は東、達坂山脈の餘波を受けて稍〻高き丘岡を成し、丘岡は西北方に延びて紅廟子の丘を形つくり、南又達坂支脈の突出するもの多く、其の北に向へる一端尾は俄に高まりて廸化の西山と爲り、其の西端は、紅廟丘の南端と相對す。故に地勢

（誤叛と破壞）
（廸化城の創築）
（地形）